

報 全 光 稲

第 34 卷 46 号

平成 24 年 1 月〇日発行
 編 集 早稲田大学稲光会
 発行者 植竹 清
 題 字 滝口 宏

川名宏美監督 逝く

川名宏美監督が9月30日お亡くなりになりました。一昨年夏食道がんを手術、昨年12月同じ箇所
 に再発、治療が続けられ、一時は回復されましたが今夏の暑さに勝てず、不帰の人となりました。
 享年76歳でした。心よりご冥福を祈り、会員一同その実績と温かい人柄を偲び、感謝を捧げます。



学生を見守りつづけた監督の笑顔

創部65周年の年、10月16日稲光会
 の日は川名監督を偲ぶ会も兼ねて開
 催致しました。奈津枝夫人とお孫さ
 んをはじめ、会員が例年の倍以上の
 50名、そして現役部員、ワセダクラ
 ブの父兄合わせて約100名が集ま
 り、川名監督を偲びました。

泰男（S57）、名古屋から及
 川啓介（H3）、山形から佐
 藤有香里（H13）会員等々地
 方の会員も多数出席され、監
 督の奥様と思い出話にしばし
 花を咲かせました。

これに先立ち10月23日に通
 夜と告別式が執り行われ、岩
 淵前部長先生、矢口部長先

生、川口競技スポーツセンタ
 ー所長等大学関係者、稲光会
 員、フェンシング関係者等約
 300名が列席、川名監督と
 お別れをしました。北原会長
 の弔辞（川名先輩の個人指導、
 人との出会いを大切にせよと
 の教え等）、川名監督が病室に
 写真を貼り、早稲田入学を楽
 しみにしていたワセダクラブ



現役のが捧げたをくぐり旅立つ監督



監督の前に力強い「都の西北」がこだまする



遺影の前に弔辞を述べる北原幹事長

松山兄弟の別れの挨拶、応援
 部主将の校歌斉唱と共に現役
 部員の剣を捧げた出棺時の見
 送りが印象的でした。ご冥福
 をお祈り致します。



監督、ありがとう
ございました！



第55回全日本選手権で女子部員たちとともに



平成19年度には全日本選手権優勝の栄冠を勝ち取る。(祝賀会にて)



滝口杯で？ 同期の故・成瀬真澄会員ともに出場する。

創部65周年記念として80歳以上の会員に記念品贈呈
昭和21年に創部、苦難の道程を経て現在275名の会員、現役部員は27名、インカレ男子フルール2連覇、早慶戦は平成7年から17連勝、世界選手権、ユニバーシアード大会出場等、好成績をあげております。日頃



日本フェンシング協会山本会長(上)、東京都フェンシング協会〇〇会長に寄付金を手渡す奈津江夫人

監督夫人、稲光会、日本フェンシング協会に寄付
11月9日、川名奈津枝夫人は故人の遺志で稲光会(含むワセダクラブ)20万円、日本フェンシング協会、東京都フェンシング協会にそれぞれ10万円を寄付されました。



道場で挨拶する吉田美佐子と、越茂樹会員

【記念品を贈呈した皆様】
戸谷高明先生／岩淵匡先生／矢口徹先生／川名夫人／吉田美佐子／黒田治夫(S24)／金子誠(S25)／中村繁代(S26)／志村憲一(S26)／越茂(S27)／堀猛(S28)／潮田英彦(S28)／坂本正樹(S28)／青柳栄三郎(S28)／嶋田友右(S29)／中村壽(S29)／梅溪秀文(S29)／青山甲子郎(S29)／八木偉(S30)／本木茂雄(S30) ※敬称略

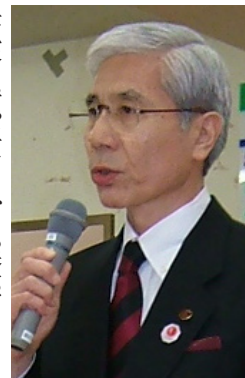
よりご指導いただいている諸先輩への感謝として、創部から昭和20年代活躍された80歳以上の会員16名の皆様と部長先生にささやかですが65周年の記念品を贈呈致しました。
10月16日稲光会の日にご出席された吉田美佐子会員(故・吉田茂樹初代稲光会会長S24年)と越茂樹会員(S27年)に代表として贈呈致しました。

中村立雄会員新監督就任

10月16日。臨時幹事会を開催、中村立雄会員(S43年卒)を全員一致で監督に決定致しました。



例年以上に多くの会員が地方からもかけつけ、川名監督を偲んだ



挨拶する中村新監督

監督就任のご挨拶

中村立雄

この度、川名前監督の後任として監督に就任致しました。稲光会の皆様のご支援を宜しくお願い致します。



監督の遺影と部旗を前に挨拶する北原幹事長

川名前監督とは、私が学院監督そして大学の助監督としての足かけ20年間、毎週土曜日練習後の3時間程、いろいろな話をさせて頂きました。その会話を通じて川名先輩の強さの秘訣を少しは掴めたかと存じます。

今回、監督職の就任には正直、逡巡致しました。謂わば「荒波の大海に漕ぎ出さなければならぬのか・・・」と云う感も有りました。しかし、考えてみますと「現在、部員はもうその荒海に漕ぎ出しているのだ。」と云う現実を見据え、小生の今迄の経験が彼らの羅針盤として役に立てばと思い、少々問題の有る身体ですが「共に航海に出る」決意を致しました。

9月の合宿から、関カレ、インカレ、早慶戦と共に闘ってきて、いかに部員達がフェンシングが好きであるか、また稽古熱心であるかと云うことが良く解りました。実に安堵しているところです。

そして、関カレでは北川が男子フルール個人で優勝。その後のインカレでは、平石が女子フルール個人優勝を獲りましたが、男子エペ個人と団体及び女子フルール団

体は、それぞれ決勝戦で敗れ優勝の悔しさを味わいました。正に、優勝への一步の歩幅はそれまでと比べて、少し広かったようです。しかし、2012年度は今回の苦い経験を活かし、更に強いチームを作り、念願の男子女子同時優勝を目指したいと考えています。

また、部として中・長期的には戦力のバランスと練習内容の充実を図り男女全種目の中広い活躍を期し、そして部員に対しては「強靱な心身」を作り、正にフェアプレーの精神を通じて、「何が美しいことか」という美学」を学ばせることを指導の根本にしていきたいと思います。重ねて、稲光会の皆様の永遠なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

○中村立雄新監督略歴
昭和39年早稲田大学高等学院卒、昭和42年早稲田大学フェンシング部主将、昭和43年早稲田大学理工学部卒後、荏原製作所勤務平成5〜18年フェンシング部助監督。平成20年荏原製作所退社、平成23年10月東京都フェンシング協会理事長就任



(4)

尊兄川名宏美君に 一文をもって捧ぐ

昭和33年卒

伊藤茂秀



川名宏美兄（以下 川名）と出会ったのは私が早稲田大学フェンシング部に入学したときに始まる。本来は体操部に入学する積もりで何気なくフェンシング部の練習を見物していたところ一人の剣士（後に八木先輩と知る）に部屋に誘い込まれその場で有無を言わずに入部となった。人間の出会いはずべて偶然ではなく必然の輪廻の縁に結ばれているという不思議さである。同期には、川名、成瀬、石黒田高、小暮、漆間、それに私伊藤と7名がいた。

その中で川名 成瀬は既に経験者として先輩格ともいえた。川名がいたお陰で早く川名に追いつきたいという思いから、ほぼ毎日午前10時から無人の道場で一人練習をはじめ、時に青山、八木、竹村

清水等諸先輩が来て個人レッスンを受ける事が出来た。それが剣技の上達を早めたから川名は正に恩人であった。

川名の剣風は、理路整然としたもので、立ち姿もまた一際凛々しく見えた。一方私の方は直感方で剣風を異にしていた。そのために川名は3種目に平均的な力を持っていたが、私はエペが苦手で、特に剣を振り回せるサーブルが好きであった。川名にエペの教授を求めたところ「性格に合わないことは無理をしないでやめたほうが良いよ」との一言でこちらもさっぱりした。

酒の話をしよう。川名は酒呑童子、私は下戸。にも拘らず時々一杯飲み屋に呑み助の田高と一緒に誘われた。お互い貧乏学生だったから懐はさびしい。二人は飲むほどに酔うほどに気炎を上げ、私は金の工面のため池袋の質屋通いをし、お陰で後の銀行との商談に役立つと言うおまけまでついた。このころすらつとしてさっぱりした女性を紹介された。「こっちは伊藤」「あつ宜しくね」何とも川名らしいぶっきらぼうな紹介であったが、この姉貴分は間違いない川名の生涯唯一無二の女性になるだろうと直感した。だからまだその頃は公娼制度があつて某君とはよく遊んだ

が川名を誘うことは決してなかった。

中村栄太郎監督の家へは良く招かれた。蛤鍋の前にコップ一杯の日本酒を飲むのが箸をつける条件であった。川名は一気に飲み干して蛤をつつき、

こっちは四苦八苦しても駄目、それを見た川名は酒なんか顔を上に向けて流し込めばそれだけだ、と不人情にも嘯いていた。それでも中村先輩が席を立った隙に蛤を取つてくれたので人情の厚さを垣間見た。三年生の頃、リーグ戦の結果が悪かったという事で中村栄太郎監督から全員坊主との宣告がつた。翌日部屋に行くとい私一人だけが丸坊主、真面目一方と思つていた竹村キャプテンも無視、川名いわく「こんな事は年中行事だから程ほどに聞いていれればいいんだ」とこれが忠告かと思つた。

4年生のリーグ戦は初めて1チーム4人総当たり制が導入された。キャプテンの川名を中心に怒涛の快進撃を続け、皆負ける気がせず浮かれ続けていた。そんなある日川名がひとり浮かない顔をしているのを見た。

何かあつたのかと聞くと「こんな時が一番怖いんだよな、伊藤は全勝の計算をしているから頼むよ」と続けられた。不敵な川名の中に繊細な一面を垣間見る思いがしてこの時ばかりは身が引き締まった。トップに立つ人間の孤独さが後年仕事のうえで大きく役立つこと

にもなった。

卒業後、私は商社マンに、川名は新聞記者にそれぞれの道を進んだ。翌年の国体と全日本を最後に私は剣を置き滝口先生の助言もあつて仕事一筋の人生を歩んだ。川名はその後も終生変わらず剣の道に携わった。二度目の会社で会社更生法を申請し一段落したある日川名が突然訪ねてきた。会うなり手を握り締め、「元氣そうで安心した、よく頑張つたなあ、伊藤ならやれると思つていたよ」と破顔した。学校の事は任せっぱなしで済まないと言うと「心配するな任せておけよの一言だった。そこには友情を超えた慈愛のような感情があつた。

稲光会へは竹村先輩が会長となつたことを契機に少しは出席するようになった。川名からは「無理はするなよ、都合のつくときでいいから出来るだけ出て来いよ」と相変わらずの気遣いが嬉しかった。

「この道に来て、この道を行く、この道にこそ人生の輝きがある。」川名はそれを体現した見事な人生であつたと思う。

川名よ有難う。そしてまた会おう。

不尽



(5)

名監督との思い出

平成〇年卒

島田 夏子



私が川名監督と初めてお会いしたのは、高校3年生の時に出場した、JOCジュニアオリンピックカップ大会の試合直後でした。

私は1ポイント差で日本代表になれず、泣き崩れているところに、にこにこ笑った川名監督がいらつしやり、「悔しいなあー」と声をかけてくださりました。とてもやさしい監督だなあと思いましたが、大学に入学し、初めて『監督レッスン』を受けたときの監督の厳しさは今でも忘れられません!!! あの厳しいレッスンをしていたいたおかげで、試合で結果を残すことができました。

私は、大学4年の頃から（社）日本フェンシング協会事務局で働いています。監督のお気遣いで協会へ就職できました。監督は協会の監事を務めていらつしやり、なおかつ事務局へ毎日いらしていました。事務局

での監督は主にグレード審査の仕事をなされていました。

時にはパソコンに向かい、文書も作成されていました! また、海外からの電話対応や、難しい漢字も幾つもご存知で、本当に監督は凄い方だと思つておりました。

私は現役時代主務を務めたので、監督と連絡を取ることが多かったのですが、監督は携帯電話をお持ちではなく、なかなか連絡が取れず苦労した覚えがあります（笑）。

ところがある日、見知らぬ番号から電話がかかり、出てみると、「おー島田か? 俺だよ、俺!」なんと、監督からの電話でした。「ついに携帯買ったんだよーお前に一番に電話したからな!」と、とても嬉しそうな監督の声が聞こえてきました。

監督と最後にお会いしたのは、4月から5月頃だったかと思います。スポーツ推薦者の資料を協会まで取りにいらつしやり、その後、食事へ行きました。監督はビールをおいしそうに飲まれていたので、お元氣そうで良かったと思つていました。まさかあれが監督との最後の食事になるとは思いませんでした。

あの日「お前に久々に会いたかつたからな」と言つていただいたことが忘れられません。

海外遠征ラッシュ



監督との思い出はまだあり、ここに書くことができないのが残念です。川名監督、大変お世話になりました。未だに監督が亡くなられたことが信じられません。「おー島田か?」と電話がかかつてきそうな気がします。本当に本当にお世話になりました。ありがとうございました。

現役部員もOG会員も海外で頑張つて試合に出場、活躍しています。2011年世界フェンシング選手権大会（10月・イタリアカタニア市）には萩原宏樹部員（スポーツ科学部4年主将）がエペに、吉澤千恵会員（H19）がフルーレに出場。

ユニバーシアード大会（8月・中国深圳市）には平石典子（教育学部3年）と鬼澤大真（社会科学部2年）がフルーレにそれぞれ出場しました。

世界選手権は男子エペ団体10位、萩原が個人94位。女子フルーレ団体11位、吉澤が個人50位。ユニバーシアードは、男子フルーレ団体13位、鬼澤が個人47位。女子フルーレ団体7位、平石は個人6位という結果でした。

OBの近況報告

学連OB／OG ゴルフコンペ 団体3位入賞

学連OB／OGゴルフコンペが11月8日千葉県のスーヴェルゴルフにて開催されました。稲光会からは金子誠（S25）、伊藤茂秀（S33）、北原輝久（S36）、慶田浩一（S38）会員が参加、ベストを尽くし、団体で見事3位に入賞。賞金1万円を稲光会に寄附されました。



鬼澤大真（2年）



平石典子（3年）



萩原宏樹（4年）

【平成23年度後期成績】
【試合結果】

●第63回全日本選手権
9月8～11日

- ▽女子フルーレ 佐々木優 ベスト8
- ▽男子エペ 萩原宏樹 ベスト8
- 第63回関東学生選手権
- ▽男子フルーレ個人 北川隆之介 優勝／鬼澤大真 3位
- ▽女子フルーレ個人 佐々木優 5位
- ▽男子サーブル個人 山口友生 4位
- ▽男子エペ個人 鬼澤大真 7位
- ▽女子サーブル個人 真所美莉 3位
- ▽男子フルーレ団体 準優勝
- ▽女子フルーレ団体 3位
- ▽男子サーブル団体 6位
- ▽女子エペ団体 8位



10月の全日本学生選手権、表彰式後の記念撮影！

▽男子エペ団体 5位
▽女子サーブル団体 準優勝

- 全日本学生選手権
10月24～28日
- ▽男子フルーレ個人 北川隆之介 3位
- ▽女子フルーレ個人 平石典子 優勝／田村須美礼 6位
- ▽男子エペ個人 萩原宏樹 準優勝
- ▽女子サーブル個人 多田真望 8位
- ▽女子エペ個人 田村須美礼 8位
- ▽女子フルーレ団体 準優勝
- ▽男子エペ団体 準優勝
- ▽女子サーブル団体 4位

- 第64回全日本選手権大会
11月24～27日
- 第64回早慶対抗定期戦大会
11月13日（慶應大学日吉）
- ▽男子フルーレ 45－11
- ▽女子フルーレ 45－15
- ▽男子エペ 45－34
- ▽女子サーブル 45－8
- ▽男子サーブル 45－38
- ▽女子エペ 40－30

【監督講評】関東学生選手権が夏合宿の成果を試す最初の試合となり、男子フルーレ個人は北川と鬼澤が準決勝で激突、北川が勝ち、決勝も制して優勝、鬼澤3位を確保した。この2年生「二枚看板」の活躍が手応えの大会であり、団体でも準優勝であった。女子個人は上位を狙える力は有るが、今一息であった。しかし団体戦ではチームワークでフルーレ3位、サーブル準優勝と善戦、インカレに期待をつなげた。

川名監督の引合い合戦となったインカレでは、男子フルーレ個人で北川は準決勝で日本代表の淡路を苦しめたが惜敗、3位入賞（優勝三宅、淡路）を果たした。また、フルーレ団体の慶応戦では鬼澤が三宅を抑えこみ、対日本代表・三宅攻略の糸口を掴むことが出来た。女子フルーレ個人は平石（3年）が安定した実力を発揮、一気に優勝を勝ち取った。男子エペ個人の日本代表・萩原は決勝進出し、同志社大・宇山と対戦、長身で鋭いフィンガリングを活かしたエペに惜々敗した。また、団体は女子フルーレが健闘、決勝で法政と対決したが、追い込み届かず敗れて準優勝、男子エペも決勝で宇山擁する同志社大に敗れての準優勝であった。正に、「決勝戦、最後の一步は歩幅が広い」の悔しさを痛感した大会と云える。

WASEDA CLUB

松山恭助の全日本7位はじめ全国大会で安定した成績が出るようになりました。松山、浅野、西沢はジュニア・カデ日本代表として二月、2012年2月にかけて世界大会に出場します。

ワセダクラブ試合結果

- 松山 恭助（中学3年）
- 8月 東京都ジュニアフルーレ優勝
- 9月 全日本選手権フルーレ 7位
- 9月 牧杯ジュニアフルーレ 3位
- 10月 東京都カデフルーレ 優勝
- 浅野 早紀（中学3年）
- 11月 全国カデフルーレ 優勝
- 西沢 樹（中学2年）
- 10月 全国カデエペ 7位
- 10月 東京都カデエペ 3位
- 今井 勇樹（小学4年）
- 10月 みのわもみじカップフルーレ 5位

